



技師



リニアック導入について

放射線治療専門放射線技師

放射線治療品質管理士 坂本 享久

現在、日本人の2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなっています。日本におけるがん治療は、主に、手術・化学療法・放射線治療が3大治療として確立されており、皆様にも広く知られていることと思います。この中の放射線治療ですが、近年ではコンピューターをはじめとする機器・技術のめざましい進歩もあり、患者のQOLの低下を妨げない治療法として注目されるようになりました。今までの日本では、“がん”患者の約20%しか放射線治療を受けてきませんでした。手術と同程度の治癒率が期待できる“がん”であっても、治療として選択されるのは手術ということが多く見受けられます。ところが、欧米で放射線治療を受ける“がん”患者は、全“がん”患者の60%にも上っています。これには、放射線治療医の数の違いというのが大きく影響していますが、放射線治療におけるQOLの低下が手術と比べ著しく少ないことも関係しているようです。放射線治療の場合、治療開始から終了まで2か月くらいかかってしまいます。治療による副作用も出てきます。しかし、手術と違い、組織の機能を温存したまま“がん”治療ができるため、日本でも今後ますます普及していくと思われま

す。16年もの長きに渡り稼働してきた当院の放射線治療機器は、装置の老朽化や治療技術の高度化により、平成24年9月にその役割を終えることとなりました。昨年12月までに機器の入れ替えが終了し、現在、春稼働に向けて

調整を行っているところです。この調整が終わり次第、新しい放射線治療機器を使った“がん”治療が始まります。

新しい機器になってどんなことができるか？

「高精度放射線治療」

この一言に尽きると思います。

今まで以上に精度の高い“がん”治療を施行することが可能になります。その結果、治療効果を上げつつ副作用を軽減させることが期待できます。治療後の患者さんのQOLの低下は最小限に抑えられ、肉体的にやさしい治療といえるのではないのでしょうか。また、条件さえ整えば、定位照射・IMRTといった、より高度な放射線治療を提供できる装置となっています。

“がん”患者は、この6年間で24万人増えました。今後、どんどん増えていくと予想されます。それに伴い放射線治療のニーズもより一層高まっていくことでしょう。愛知県“がん”診療拠点病院として皆さんの期待に応えるべく高精度放射線治療を提供していきたいと思

